

【第1号議案】

お手植え・お手播き樹種等（案）について

1 概要

有識者による「第76回全国植樹祭愛媛県実行委員会植樹専門委員会」を設置し、委員の協議により候補樹種を選定した。

2 選定経過

(1) 植樹専門委員会 委員（9名）

職名	所属機関・団体	役職	氏名
委員長	松山東雲短期大学	名誉教授	松井 宏光
委員	愛媛大学	准教授	鍋嶋 絵里
	林野庁四国森林管理局愛媛森林管理署	森林技術指導官	川村 之二
	愛媛県森林組合連合会	事業部長	福住 隆雄
	一般社団法人愛媛県木材協会	事業課長	余吾 初徳
	愛媛県山林種苗農業協同組合	専務理事	野口 満晴
	公益財団法人愛媛の森林基金	事務局長	俊成 秀樹
	愛媛県農林水産部森林局	局長	西田 伸生
	愛媛県農林水産部農政企画局 農林水産研究所林業研究センター	センター長	鈴木 教幸

(2) 専門委員会の開催

第1回植樹専門委員会

- ・開催日 令和5年11月9日（木）
- ・場 所 愛媛県水産会館 研修室
- ・内 容 植樹樹種選定方針（案）について 等

第2回植樹専門委員会

- ・開催日 令和6年1月26日（金）
- ・場 所 愛媛県林業会館 大ホール
- ・内 容 お手植え・お手播き樹種の選定について 等

(3) 選定結果


お手植え樹種：6種（天皇陛下：3種、皇后陛下：3種）

お手播き樹種：4種（天皇陛下：2種、皇后陛下：2種）

区分	天皇陛下	皇后陛下
お手植え	スギ（無花粉）	ヒノキ
	クスノキ	タチバナ
	クヌギ	トキワバイカツツジ
お手播き	クロマツ	ヤブツバキ
	ツブラジイ	イロハモミジ

3 お手植え樹種（案）

【天皇陛下】



樹種名		選定理由
スギ (無花粉)		<ul style="list-style-type: none"> ○<u>本県の林業・木材産業</u>を支える常緑針葉樹 ○県独自の品質基準を満たす製品を「<u>媛すぎ</u>」としてブランド化 ○本県では、花粉症対策として、<u>無花粉のスギ優良品種</u>を選抜
クスノキ		<ul style="list-style-type: none"> ○県内の<u>照葉樹林</u>を構成する常緑広葉樹 ○<u>県内各地に多くの巨樹・名木</u>が残り、広く県民に親しまれている。 ○今治市(大三島町)の<u>大山祇神社</u>では、<u>38本が国の天然記念物</u>に指定
クヌギ		<ul style="list-style-type: none"> ○県内の<u>里山林</u>を代表する落葉広葉樹 ○1960年頃までは、薪炭材として一般家庭の暖房や炊事等に利用 ○現在でも、「<u>原木しいたけ</u>」栽培や「<u>伊予の切炭</u>」の材料に活用

【皇后陛下】



樹種名		選定理由
ヒノキ		<ul style="list-style-type: none"> ○<u>本県の林業・木材産業</u>を支える常緑針葉樹 ○県内人工林の約半数を占め、<u>全国トップクラスの生産量</u>を誇る ○県独自の品質基準を満たす製品を「<u>媛ひのき</u>」としてブランド化
タチバナ		<ul style="list-style-type: none"> ○伊豆半島以西の太平洋側から沖縄にかけて自生する常緑広葉樹 ○<u>柑橘王国愛媛にゆかり</u>が深く、本県では南予地方にわずかに自生 ○<u>初夏に咲く白い五弁花</u>は、文化勲章の意匠として採用
トキワ バイカツツジ		<ul style="list-style-type: none"> ○<u>本県固有</u>の常緑広葉樹で、4月下旬頃に<u>淡紅紫色の花</u>を咲かせる ○<u>宇和島市(津島町)にのみ自生</u>しており、極めて分布が限定的 ○県の条例により、<u>特定希少野生動植物</u>に指定

4 お手播き樹種（案）

【天皇陛下】

樹種名	選定理由
クロマツ 	<ul style="list-style-type: none"> ○海岸部の砂浜等に自生する常緑針葉樹で、<u>県木「まつ」</u>の一種 ○瀬戸内の<u>白砂青松</u>を構成し、今治市の志島ヶ原は国の名勝に指定 ○明治初期まで製塩の燃料として、昭和中頃まで菊間瓦生産に利用
ツブラジイ 	<ul style="list-style-type: none"> ○県内の<u>照葉樹林を代表</u>する常緑広葉樹 ○松山城山樹叢の構成樹種であり、<u>初夏に淡黄色の花</u>を咲かせる ○樹高 25m に及ぶ大木もあり、県内複数の市で天然記念物に指定

【皇后陛下】

樹種名	選定理由
ヤブツバキ 	<ul style="list-style-type: none"> ○県内の<u>照葉樹林を代表</u>する常緑広葉樹 ○冬から春にかけて咲く赤い花は、<u>開催地である松山市の花に指定</u> ○奈良時代編纂「伊豫国風土記」に、本種の繁茂を示す碑文が記載
イロハモミジ 	<ul style="list-style-type: none"> ○県内の<u>標高 300～1300m の林内で自生</u>する落葉広葉樹 ○日本を代表するカエデの一種で、広く県民に親しまれている。 ○<u>面河溪や小田深山溪谷</u>など、県内各地で<u>見事な紅葉</u>が楽しめる。

5 一般招待者植樹の樹種（案）

樹種数	樹種名
21	アカマツ、アベマキ、アラカシ、イタヤカエデ、イロハモミジ、ウバメガシ、ウラジログシ、エゴノキ、エノキ、クスノキ、クヌギ、クロマツ、ケヤキ、コナラ、スギ、スダジイ、ツブラジイ、トチノキ、ヒノキ、ヤブツバキ、ヤマモモ